



2023年2月14日

各 位

会 社 名 BRUNO株式会社
代表者名 代表取締役社長 森 正人
(コード番号3140 グロース)
問合せ先 常務執行役員経営情報部長 松原 元成
(電話番号 03-5446-9505)

(訂正) 「2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の 一部訂正に関するお知らせ

2023年2月10日に開示いたしました「2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の記載内容に訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 訂正の理由

「2023年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の定性的情報の記載内容の一部に誤りがあることが判明しましたので、これを訂正いたします。なお、訂正箇所には下線を付して表示しております。

2. 訂正の内容

(添付資料 2ページ)

1. 当四半期決算に関する定性的情報 (1) 経営成績に関する説明

【訂正前】

セグメントの業績は以下の通りであります。

住関連ライフスタイル商品製造卸売事業は、当社卸売販売におきまして、国内販売においては、販路拡大を進めている量販店の売上が拡大、またTV通販の売上也好調に推移しました。Eコマース販売を主とする得意先につきましては巣ごもり需要の落ち着きから売上は減少しました。また海外販売では前述の通り、中国で「グリルサンドメーカー」、台湾で「スチーム&ベイクトースター」が好調に推移しましたが、香港・台湾での「コンパクトホットプレート」の売上が減少、またコンテナ運賃上昇の影響などにより販売代理店の仕入れが抑制された結果、北米での売上が減少しました。結果として当社卸売販売の売上高は前年同期比95%となりました。子会社シカタ社卸売販売におきましては、量販店向けのOEM販売の売上が堅調に推移し、売上高は前期比114%となりました。結果として住関連ライフスタイル商品製造卸売事業の売上高は5,045百万円(前年同期は5,100百万円)、営業利益は96百万円(前年同期は701百万円)となりました。

住関連ライフスタイル商品小売事業は、Eコマース販売において、直営店舗と自社ECの会員を一元化しアプリ・WEB接客を導入した効果により自社ECサイトのリピーター売上比率が向上、また福袋など各種施策を実施した効果により自社ECの12月受注金額は前年比156%と過去最高となりました。一方、楽天、Amazon等のモールサイトは巣ごもり需要が一段落したこともあり売上は減少、結果としてEコマース販売の売上高は前年同期比92%となりました。直営店販売においては、店舗数の減少により売上高は前年同期比86%と下回りましたが、旅行需要の回復や出張機会の増加により、「キャリア」や「トラベルバック」など『MILESTO』のトラベル関連商品の売上が拡大し、既存店の売上高は前年とほぼ同水準となりました。これらの結果として、住関連ライフスタイル商品小売事業の売上高は3,526百万円(前年同期は3,668百万円)、営業利益は268百万円(前年同期は634百万円)となりました。

円)となりました。

デザイン事業においては、中国におけるBRUNO商標のライセンス収入が前年同期に比べ大きく増加した結果、売上高は113百万円(前年同期は43百万円)、営業利益は113百万円(前年同期は43百万円)となりました。

【訂正後】

セグメントの業績は以下の通りであります。

住関連ライフスタイル商品製造卸売事業は、当社卸売販売におきまして、国内販売においては、販路拡大を進めている量販店の売上が拡大、またTV通販の売上也好調に推移しました。Eコマース販売を主とする得意先につきましては巣ごもり需要の落ち着きから売上は減少しました。また海外販売では前述の通り、中国で「グリルサンドメーカー」、台湾で「スチーム&ベイクトースター」が好調に推移しましたが、香港・台湾での「コンパクトホットプレート」の売上が減少、またコンテナ運賃上昇の影響などにより販売代理店の仕入れが抑制された結果、北米での売上が減少しました。結果として当社卸売販売の売上高は前年同期比95%となりました。子会社シカタ社卸売販売におきましては、量販店向けのOEM販売の売上が堅調に推移し、売上高は前期比114%となりました。結果として住関連ライフスタイル商品製造卸売事業の売上高は5,045百万円(前年同期は5,100百万円)、営業利益は323百万円(前年同期は701百万円)となりました。

住関連ライフスタイル商品小売事業は、Eコマース販売において、直営店舗と自社ECの会員を一元化しアプリ・WEB接客を導入した効果により自社ECサイトのリピーター売上比率が向上、また福袋など各種施策を実施した効果により自社ECの12月受注金額は前年比156%と過去最高となりました。一方、楽天、Amazon等のモールサイトは巣ごもり需要が一段落したこともあり売上は減少、結果としてEコマース販売の売上高は前年同期比92%となりました。直営店販売においては、店舗数の減少により売上高は前年同期比86%と下回りましたが、旅行需要の回復や出張機会の増加により、「キャリー」や「トラベルバック」など『MILESTO』のトラベル関連商品の売上が拡大し、既存店の売上高は前年とほぼ同水準となりました。これらの結果として、住関連ライフスタイル商品小売事業の売上高は3,526百万円(前年同期は3,668百万円)、営業利益は523百万円(前年同期は634百万円)となりました。

デザイン事業においては、中国におけるBRUNO商標のライセンス収入が前年同期に比べ大きく増加した結果、売上高は113百万円(前年同期は43百万円)、営業利益は113百万円(前年同期は43百万円)となりました。

以 上